

わたしは大学で国際関係論のゼミナールを担当しているので、最近流行の頂上会議のあとに発表される共同コミュニケについては、学生諸君の勉強のために、学生たちといっしょにそれを原文で読み合わせてみることにしている。

さきの日ソ首脳会議後に発表された日ソ共同声明についても、早速、ロシア語と日本語の原文を比較検討したところ、約六カ所の重要な食い違い

# 中国情報

中 嶋 嶺 雄

## 北方領土問題と中国

### その「ありがたな迷惑」な声援

大重要な問題だと判断し、わたしはそこを、たまたま依頼されていた「言論」欄に早速書いたのである。そのあとさる十月十四日にこの問題が新聞で大きく報道され、周知のように問題化したのであるが技術上のミスという公式見解にもかかわらず、問題がそのような性質のもでなかったことは明らかである。

の国連総会本会議で喬冠華・中国代表團長が、この周恩来報告の言葉をそのままくり返してみせたのであった。つまり、中国は、中国共産党大会および国連総会という社会主義政治と国際政治の二つの検舞場で北方領土問題をとりあげ、ソ連にたてついたのであり、こうして北方領土問題は、ついに、深刻な中ソ対立の好劇に供されてしまったのである。もともとソ連の意思が薄いソ連としては、その体面からしても、また中ソ国境間の寸土を争っている手前からしても、こうなっているに返還を拒否することになるのである。

語の正文を比較検討したところ、約六カ所の重要な食い違い

（一）ついで、北方領土問題をめぐる日ソ交渉の真実が露呈したのであるが、今回は、たしかに時期も悪かったと言わねばならない。その時期の悪さの大きな要因の一つは日ソ交渉に先だって、中国が対ソ非難の一環として北方領土問題を取り上げたことにある。

つい二年半ほど前までは、尖閣列島の領有権を日本にたいしてあれほど主張してやまなかった中国が、一転して日本の北方領土返還要求を支持している姿には目をみはらざるをえないが、このような中国の所為は、この北方領土問題に關するかぎり、ありがたな迷惑なのである。

今回の日ソ交渉が、北方領土問題をめぐって難航するであろうこと、ソ連は当面、北方領土返還の意思がないことは、日ソ交渉の成果が、きりに喧伝されたにもかかわらず極めて明瞭だったので、日ソ共同声明の日露両文間の食い違いは、今回の日ソ交渉の真実をそのまま反映し

（二）ついで、十月十一日示したところから述べ、

日中国交が開けたのだから「北方領土問題では北京はだまっていり欲しい」べらうの要求を日本政府は中国にたいして行うべきと願うが、どうであろうか。

(東京外大助教)